

徳島県治山林道協会

治山林道協会報

新年のあいさつ

徳島県治山林道協会会長 山口俊一



令和六年の新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。
会員の皆様におかれましては、ご壮健で新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、日頃より本県の治山林道事業推進に格別のご支援、ご協力をいただき、重ねて厚くお礼を申し上げます。

先ず以て、一月一日に発生した能登半島地震により、お亡くなりになられた方々のご冥福、被災された方々のお見舞い、そして一日も早い復旧を心よりお祈りいたします。

さて、今年の干支は「甲辰(きのえ・たつ)」でございますが、「甲」は「生命や物事の始まり、成長」を意味します。そして「辰」は「全ての新芽が葉を広げ、降り注ぐ日の光を全身で浴びている中春」を表しています。このことから、「甲辰」は「春の日差しが、あまねく成長を助くる年」になると言われています。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が第五類に移行し、様々な行事がコロナ前と同様に開催されるようになり、人の動きが活発化することにより、経済回復の兆しが見えてきましたが、世界に目を向けますと、膠着状態が続く長引くウクライナ危機に加え、イスラエルとパレスチナによるガザ紛争が勃発するなど予断を許さない国際情勢が続いています。更には、円安が続く諸物価の高騰が生活を直撃するとともに、政治の世界においても、政治資金問題で異例の内閣改造が行われるなど、一昨年に続き波乱に満ちた一年でした。

また一方、山村地域に目を向けますと、ウッドショックや円安の進行によるエネルギーや物価の高騰により、地域経済を取り巻く現状は厳しさを増しております。更に追い打ちを掛けるように気候変動の影響に伴う、「異常気象」を「日常気象」と言わざるを得ない状況下で、線状降水帯による豪雨や大型化する台風などにより、河川の氾濫や土砂災害が発生し、多くの尊い人命や貴重な財産が失われました。国土強靱化は、進みつつも未だ山地災害危険地区は、全国で十九万四千箇所も存在しています。

このような状況の中、林野公共事業におきましては、経済対策のみならず、事前防災・減災や復旧対策の充実と強化などの「緑の国土強靱化」「グリーン成長」の実現に不可欠な「幹線林道等の基盤整備及び強靱化」、そして総理も提唱する「花粉症対策」を推進するため、更なる予算確保に向けて、「2023治山・林道のつどい」や森林整備・治山事業促進議員連盟緊急決起大会などの各種要望活動を展開して参りました。

その結果として、「防災・減災、国土強靱化のための5カ年加速化対策」、「路網の整備・機能強化対策」、「花粉症対策」などの林野公共関係予算(治山・森林整備)は、令和五年度補正予算と令和六年度当初予算と合わせますと、一、六八二億円に達し、目標額である二、六〇〇億円を六年連続でクリアし、二、七〇〇億円に迫ることが出来ました。更には森林環境譲与税の譲与基準の見直しにより、私有林人工林面積の配分割合が引き上げられ、山村地域の自治体への配分額が増加し、森林整備等への活用の推進も期待されています。

私事となりますが、議院運営委員長統投の内定をいただきました。国会運営を取り仕切る要職を三期連続で担う初めてのケースに重責を感じておりますが、引き続き公平公正かつスムーズな国会運営に力を尽くすとともに、当協会の会長として、また、「森林整備・治山事業促進議員連盟」「(社)日本治山治水協会・日本林道協会」の会長として、治山林道事業の推進に向けて、「予算の確保」「事業の着実な執行」に、これまで以上に精一杯努力して参ります。

今年の干支、「甲辰」は、「春の日差しが、あまねく成長を助くる年」になるそうなので、コロナ禍以降の停滞し続けていた世の中に、暖かい日差しが降り注ぎ、急速な成長を誘う年になることを心より願っております。

結びとなりますが、今後とも、なお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、会員皆様の更なるご活躍、ご健勝を心より御祈念申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。

● 新年のご挨拶	徳島県知事 後藤田正純	… 1	● 令和5年度全国治山林道協会会長会議開催	… 13
● 新年のご挨拶	徳島県農林水産部長 中藤 直孝	… 2	● 年男・年女の抱負	… 14
● 治山林道事業に関する知事への要望		… 3	● 2024年度版 全森建福祉共済制度	… 15
● 「2023治山・林道のつどい」及び治山・林道コンクール表彰式の開催		… 5	● 森林基幹道赤帽子線が全線開通!	… 17
● 森林整備・治山事業促進議員連盟「緊急決起大会」の開催		… 7	● とくしま木づかいフェア2023への出展	… 17
● 令和5年度「全森建」技術・労働委員会開催		… 8	● 本協会の主な動向(10月~12月)	… 17
● 治山林道技術研修会開催		… 9	● 編集後記	… 17
● 「土育出前授業」の開催		… 11		

目次
CONTENTS

新年のご挨拶

徳島県知事

後藤田 正 純



徳島県治山林道協会の皆さま、新年明けましておめでとうございます。

皆さまはどのような新年をお迎えでしょうか。

私は、昨年五月に徳島県知事に就任し、県政のかじ取りを担わせていただくこととなり、初めての新年を迎えました。

県民の皆さまのご期待に応えることができるよう、本年も、様々な取組を全力で進めて参りますので、よろしくお願いたします。

さて、昨年は、原油・原材料高や円安の影響による物価高騰が、会員の皆さまはもとより、県民生活に大きな影響を与えました。

加えて、本県をはじめとした地方では、少子高齢化や若者の流出、それに伴う労働力不足など、静かなる有事が進行しており、徳島は、今まさに、勝ち組と負け組に分かれる地方の正念場「地方創生戦国時代」の真っ只中にあると言えます。

一方、「二〇二五年大阪・関西万博」を間近に控えた本年は、一層の飛躍に向け、歩みを進める重要な年です。

厳しい環境に臆することなく、激しい競争を勝ち抜き、すばらしい徳島を未来に引き継いでいくため、「県民目線」と「現場主義」で「未来志向の挑戦」をさらに加速させていきます。

特に、昨年九月に策定した県版・骨太方針「『徳島新未来創生』政策集」に掲げるミッション「安心度UP」、「魅力度UP」、「透明度UP」に基づく政策の実現に積極的に取り組みます。

まず、こどもたちが多様性を尊重し、主体的に行動できる力を育むなど徳島新未来創生に向けた教育再生や、切れ目のない子育て支援・「こどもの居場所づくり」などによる「こどもまんなか社会」の実現、県民の皆様が安心して暮らせる医療・介護・福祉の充実と健康づくりの推進、南海トラフ巨大地震をはじめとする自然災害などを迎え撃つ危機管理体制の充実と県土強靱化など「安心度UP」に取り組みます。

中でも、森林土木分野においては、「災害に強い森林づくり」に向けた治山林道事業の着実な推進、そして、中山間地域の「守り手」である会員のみなさまからの声を踏まえ、次代を担う若者の就業促進に向けた「土育（つちいこ）」の積極的な展開により、強靱な県土づくりを進めます。

また、新ホールやアリーナ整備などによる県都のまちづくりや、国際線の誘致や宿泊キャパシティの拡大、「とくしま林道ナビ」観光情報の充実・強化や、林道を活用したイベントの開催支援など、

県内林道の新たな魅力発信を通じた観光立県の推進、徳島の観光・物産・食の積極的なプロモーション展開や国内外の販売ルートの拡充による攻めの農林水産業の推進、蓄電池関連産業が集積するバッテリーバレイの構築などによる地域経済を牽引する企業の成長と新産業の創生など「魅力度UP」に挑みます。

さらに、県民参加型の開かれた県政運営の推進、職員の働き方改革の推進による県政運営体制の刷新や、フロー・ストック両面からの持続可能な財政運営の推進など「透明度UP」を進めます。

こうした異次元の政策を実現するため、四月から県庁組織を再編し、新たな時代のニーズに即応できる推進体制を構築します。

徳島は阿波藍の産地・青色LED発祥の地としての「サステナブル」、豊かな自然環境がもたらす食の宝庫としての「ナチュラル」、四国遍路発心の地としての「スピリチュアル」といった魅力のあふれる地です。

これらの強みを最大限に活かし、「ずっと居りたい」、「いつも帰りたい」、「みんな行きたい」と感じていただける徳島を目指していきますので、徳島県治山林道協会会員の皆さま、いっしょに徳島の未来をつくりましょう！

新年のご挨拶



徳島県農林水産部長

中 藤 直 孝

明けましておめでとうございます。
徳島県治山林道協会の皆様には、新しい年を晴れやかに迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

また、平素より治山林道事業をはじめ、本県農林水産行政全般にわたり、格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、ロシアのウクライナ侵攻や長引く円安を背景とした、木材需給の逼迫やエネルギー価格高騰の長期化などにより、本県の林業・木材産業にも大きな影響が及んでおります。

このような中、県では「令和四年五月補正予算」により、「県有林」からの原木の供給促進や、「民有林」における主伐の加速化、中小製材工場に向けた「人工乾燥機の導入支援」など県産材の供給体制強化に取り組んできたことに加え、建築用材の需要増加に向け、「県産材市場サプライチェーン強化事業」を盛り込んだ「令和五年九月補正予算」を編成するなど、林業生産基盤の核となる「林道事業」の推進とともに、海外需要に左右されない安定した林業・木材産業の創出を目指しております。

一方、近年、「線状降水帯」の発生や「台風の大規模化」に伴う豪雨災害が増加する中、昨年も記録的な大雨により、九州地方をはじめ全国各地で土砂災害が発

生し、多くの尊い人命や貴重な財産が失われております。

このように自然災害が頻発化・激甚化する状況のもと、治山林道協会の皆様にもご支援を賜り、令和二年十二月に創設された「防災・減災、国土強靱化のための五か年加速化対策」を積極的に活用し、これまでに、五十一カ所の治山施設で復旧・予防対策、三路線の林道で開設・改良工事を実施するなど、早期の災害復旧や事前防災対策に取り組んできたところです。

また、昨年十一月の経済対策に盛り込まれた国補正予算にいち早く呼応し、速やかに事業推進を図るべく、「令和五年十一月補正予算」として関連予算を編成したところであり、あらゆる関係者が協働して新次元の治水に取り組む「流域治水プロジェクト」とも連携を図りながら、更なる「防災・減災、国土強靱化対策」を推し進めて参ります。

さらに、来る令和六年度当初予算につきましましては、先の十一月補正予算と合わせた予算として編成することとしており、今後とも事業効果の早期発現を目指し、切れ目のない事業展開を図って参ります。

そして、中山間地域の「守り手」でもある建設業の「担い手確保」には、「若者の就業促進」に向けた「人材育成」の

強化が不可欠との認識のもと、子供の頃から「土に触れ」、森林土木の魅力を感じながら学べる「土育（つちいく）」を展開している中で、「森林土木」の魅力や「森林づくり」の大切さを紹介する「ショートムービー」を、様々なメディアを通して広く県民の皆様へPRするとともに、

令和五年十一月十六日、三好市立辻小学校において、会員の皆様のご協力のもと、小学生及び幼稚園児を対象とした記念すべき第一回目の「土育出前授業」の開催、建設機械の見学・体験や「ドローン」の操縦、様々な種子の入った「粘土団子作り」を通じて、参加者より好評を得ることができました。

引き続き、未来を担う若者の就業促進を図り、地域の「ソフトパワー強化」に取り組んで参ります。

今後とも、皆様との緊密な連携協力のもと、中長期的な観点にも重きを置き、創意工夫をこらしながら、あらゆる自然災害にしっかりと備える「緑の県土強靱化」に全力で取り組んで参る所存です。

結びにあたり、徳島県治山林道協会の更なるご発展と会員の皆様のご健勝、ご活躍を祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

皆様、本年もよろしくお願ひ申し上げます。

治山林道事業に関する 知事への要望

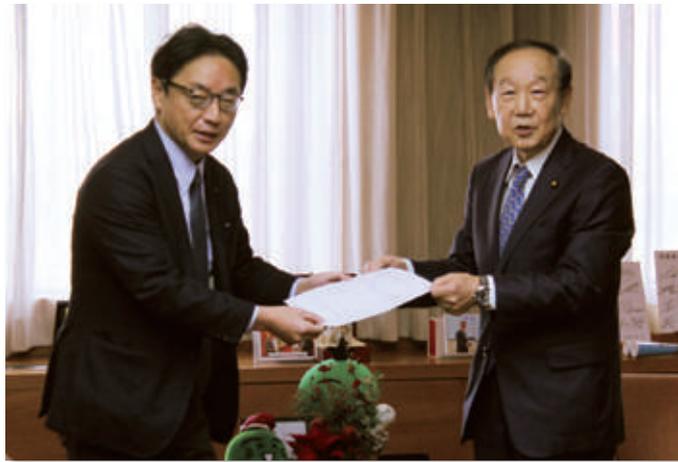
令和五年十二月二十五日、後藤田徳島県知事に對し「治山林道事業に関する要望」を、山口会長はじめ役員全員の十六名で行いました。

要望の主な内容は、

- ・「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」の着実な実施と推進に必要な予算の安定的・継続的確保
- ・大規模災害に備えた事前防災・減災対策、復旧対策の充実や強化など「緑の国土強靱化」の推進
- ・「林業の成長産業化」や「森林吸収源対策」において最も重要な幹線林道を核とした路網整備の推進
- ・山間部特有の厳しい現場条件に応じた適切な設計積算や、昨今の資材価格高騰を踏まえた適切な対応
- ・中山間地域における建設業者への担い手の就業につながる人材育成の推進

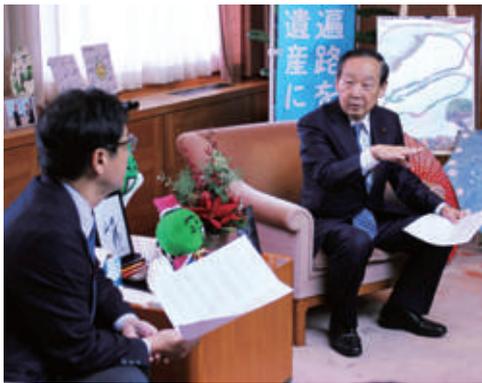
の5点で、令和6年度当初予算編成に向けた要望を行いました。

これに対し知事からは、「県の十一月補正予算二七三億円の内、その殆どが『防災・減災、国土強靱化』関連の予算であり、今後とも加速化を進めて



いきたい。また、中山間地域の建設業等への『人材確保・育成』するとともに、幹線林道の整備により生産性を高め、『森林県の強み』を更に活かしていきたい。」との力強いお言葉をいただきました。

要望事項は次の通りです。



治山林道事業に 関する要望書

平素は、治山林道事業の推進並びに本会の活動につきまして、格別の御配慮を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、森林は、県土の保全や水源の涵養、地球温暖化防止等の多面的機能を有し、私たちの豊かな暮らしを育むなど、県民の生活に欠かすことのできない重要な役割を果たしております。

一方で、近年、気候変動の影響に伴う記録的な大雨の頻発化や台風の大型化などにより、全国各地で山腹崩壊や林道の決壊など激甚な被害が多発しており、今年も九州地方をはじめ全国で河川の氾濫や土砂災害が発生し、多くの尊い人命や貴重な財産が失われました。

また、新型コロナウイルス感染症拡大に端を発した「ウッドショック」、その後の「ウクライナ危機」や「円安の進行」などの影響を受け、山村の地域経済は疲弊し、森林・林業を取り巻く環境はより厳しさを増しております。

このような中、県産材の安定供給体制確立に向けた生産基盤の強化や、「花粉症対策」のさらなる加速も含め、「伐って、使って、植える」森林資源循環利用の促進が課題となっております。

また、「大型台風」や「線状降水帯」に伴う「これまでにない豪雨」、切迫する「南海トラフ巨大地震」や、頻発する「活断層地震」による大規模な自然災害に備える山地防災力の強化も強く求められています。

これらに対応するには、山地における事前防災・減災対策の推進や、効率的な林業経営に向けた幹線林道の整備促進など「緑の国土強靱化」に資する治山林道事業の着実な実施が不可欠であります。

つきましては、県の財政事情が非常に厳しい中とは存じますが、令和6年度当初予算編成にあたりまして、次の事項について、特段の御配慮を賜りますようお願い申し上げます。

○「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」の着実な実施と、今後とも引き続き推進するために必要な予算

の安定的・継続的確保

○台風や集中豪雨、南海トラフや活断層帯の地震による大規模災害に備えた事前防災・減災対策、復旧対策の充実や強化など「緑の国土強靱化」の推進

○「花粉削減・グリーン成長」の実現を目指す「林業の成長産業化」や「森林吸収源対策」において最も重要な幹線林道を核とした路網整備の推進

○山間奥地、急斜面など山間部特有の厳しい現場条件に応じた適切な設計積算や、昨今の資材価格高騰を踏まえた適切な対応

○中山間地域の安全安心や暮らしを支える建設業者への若者をはじめとする担い手の就業につながる人材育成の推進

令和五年十二月

徳島県治山林道協会 会長
山口 俊 一

「2023治山・林道のつどい」及び 治山・林道コンクール表彰式の開催

令和五年十一月二十二日、東京都内の海運クラブ二階ホールにおいて、「2023治山・林道のつどい」が、全国治山林道協会会長会議の主催で開催されました。

今年度のつどいは、新型コロナウイルス感染症の五類移行により、対面形式の通常規模で開催され、一〇〇名の国会議員を迎えるとともに、本協会員をはじめ、全国森林土木建設業協会、日本林業土木連合協会及び各都道府県治山林道関係者が全国各地より集結し、四〇〇名をこえる方々が参加されました。

この「つどい」は、頻発する山地災害や森林・林道被害を受け、地域の社会基盤である森林・山村を守るため、治山事業及び森林整備事業による「緑の国土強靱化」、林道等路網整備の強力な推進、森林吸収源対策の着実な推進、花粉症対策の加速化等に向けた林野公共事業予算の確保・拡充を実現するため、関係者一丸となった要請活動として行われました。

山口会長の挨拶、舞立農林水産大臣政務官の祝辞、中谷自民党林政対策委員長



2023治山・林道のつどい



舞立農林水産大臣政務官からの激励の言葉



山口会長の挨拶

からの激励の言葉に続き、林野庁長崎屋森林整備部長から森林整備事業・治山事業の推進について「基調報告」、そして現場の第一線でご尽力されている鹿児島県と北海道の協会長による「現場からの切実な声」の後、「林野公共事業予算の拡充に関する決議文」が採択され、盛会のうちに終了しました。

「つどい」終了後には本県選出の国会議員に対し、決議内容について要望活動を実施し、各事項についてご理解ご賛同をいただきました。

また、「つどい」に引き続き、令和五年度治山・林道コンクール表彰式が行われました。本県では、農林水産大臣表彰1名をはじめ、併せて五名の方々が各賞を受賞されました。受賞者の皆様方はつぎのとおりです。誠にありがとうございます。

治山・林道コンクール表彰者

農林水産大臣賞

●第四十六回林道維持管理コンクール

美馬市長

加美 一成

美馬市 木屋平木沢線

日本治山治水協会会長賞

●第三十九回民有林林道工事コンクール

株式会社名正建設

笠原 慎吾

神山町 緊急予防治山事業 大中尾

●第二十四回民有林治山木材使用工事コンクール

株式会社西條組

西條 知之

阿波市 復旧治山事業 宮川内

日本林道協会会長賞

●第三十九回民有林林道工事コンクール

株式会社小野組

小野 恭補

那賀町 岩倉蟬谷線木頭工区

●第二十四回民有林林道木材使用工事コンクール

有限会社西岡建設

西岡 憲治

三好市 川崎国見山線池田工区



受賞者と山口会長



林道維持管理コンクールにおいて、農林水産大臣賞受賞

森林整備・治山事業促進議員連盟「緊急決起大会」の開催

令和五年十一月二十一日午後二時から、森林整備・治山事業促進議員連盟「緊急決起大会」が、衆議院第一議員会館大会議室において開催されました。

昨今の災害の激化や国内の木材供給の変動等の情勢を踏まえ、国民の「いのち」と「暮らし」を守る「緑の国土強靱化」をはじめ、林業の持続的な発展やカーボンニュートラル等の実現、花粉症対策、更には経済安全保障の観点から国産材安定供給体制の確保等に向け、林野公共事業は不可欠であり、令和五年度補正予算及び令和六年度当初予算を確実に措置確保するとともに、国土強靱化に向けた予算も含め林野公共事業予算の一層の増額を目指し、一致団結してこれに対処するため、関係者が集結しました。臨時国会中の多忙な時期でありましたが、国会議員四〇名をはじめ関係者約一一〇名の方々が参加されました。

冒頭で山口会長から「予算編成も大詰めを迎え、補正予算も閣議決定されたが、少なくとも二、六〇〇億円以上の確保、更に二、七〇〇億円を目指した予算確保に向けて、本日、議連決議をいただき、しっかりと要望していきたい。」との力強い挨拶に続き、現場の第一線でご尽力されている福岡県添田町 寺西町長・愛知県新城市 下江市長からの切実な「現場の声」の後、決議文が採択され、田村幹事長から「関係者の心をひとつにして予算獲得に頑張っていこう」との決意表明で、盛会の内に終了しました。



中谷自民党林政対策委員会の
激励の挨拶



世耕参議院幹事長の
激励の挨拶



山口会長の挨拶



「緊急決起大会」開催状況

令和五年度「全森建」技術・労働委員会開催

令和五年十一月七日、東京都千代田区永田町ビルにおいて、「全森建」技術・労働委員会が開催されました。当委員会は、徳島県治山林道協会施工委員会の全国版に相当するもので、年一回開催され、各都道府県協会から提出された設計・積算等に関する改善要望事項について、林野庁と意見交換を行うもので、新型コロナウイルスの五類移行後、初めて通常規模で、対面形式による形態で実施されました。

林野庁からは、計画課施工企画調整室・整備課・治山課の各設計積算担当官に御臨席いただき、全森建からは、新たに委員長に就任された河内委員長（石川県森林土木協会副会長）ほか各地区代表者十二名の委員が参加しました。

各都道府県協会から事前提出のあった三十五項目の改善要望事項について、それぞれの内容に応じて「設計」「歩掛」「積算」「その他」に区分し、林野庁の考え方を説明いただきながら、各委員との活発な意見交換が行われました。

また、林野庁の「選ばれる森林土木」への取組状況やICTの活用事例についての情報提供がありました。

本協会は、四国地区代表として参加し、「森林土木工事の施工条件の特性等を踏まえた適切な事業の推進」に向けた次の四件を要望しました。これらの要望については、本委員会における議論を踏まえ、令和五年度末を目標に林野庁の対応等について整理していただくこととなりました。



河内委員長挨拶



林野庁計画課施工企画調整室 徳留室長挨拶

今後とも本協会施工委員と連携し、地域の実情に応じた要望をあげていきたいと考えております。

◎徳島県要望事項

歩掛関連

- ・ 既設コンクリート建造物の取り壊しに係る歩掛の見直し
- ・ 小型建造物の施工に係る歩掛の見直し
- ・ 曲線部のコンクリート擁壁工の施工歩掛の見直し

その他

- ・ 森林土木事業を担う「人材の確保・育成」に向けた取組



技術・労働委員会開催状況

治山林道技術研修会開催

十月二十四日から二十六日の三日間において、徳島県建設業協会及び徳島県のご協力のもと、令和五年度治山林道技術研修会を開催しました。

今年度の技術研修会においても、新型コロナウイルス感染症対策として「三密回避」のため、会場を西部・東部・南部に三分割して連日開催しました。更に西部会場においては、ZOOMを活用し、メイン会場からサテライト会場へ研修状況をweb配信することにより同時進行するとともに、東部及び南部会場においては、徳島地方気象台から講義をwebにて配信しました。

初日の西部会場を皮切りに、講師の諸先生方により、気象台が発表する防災気象情報、安全で事故のない現場管理、そして日々変貌する労働環境の変化への対応など会員の技術力向上を目指した研修を実施し、四会場で一五三名の方々が受講されました。

また、受講者には全国土木施工管理技士会連合会の継続教育学習制度CPDSの受講証明書(6unit)を交付しました。

今後とも、会員の皆様方の受講機会を増やすとともに、ZOOM等の活用により、研修効果の向上に努めて参ります。



ZOOMによる徳島地方気象台からの配信

研修の講師及び概要については次のとおりです。
(敬称は略させて頂きます。)

■研修Ⅰ 徳島県の林道事業について

徳島県農林水産部

森林整備課 課長補佐 酒本 祐樹

林道事業の計画・設計・施工にあたって基準となる規程類の考え方や最近の改正内容、運用等について



西部メイン会場

て習得するとともに、近年の頻発化・激甚化する豪雨に対応し、災害に強い強靱化した林道の設計施工について解説する。

■研修Ⅱ 労働安全衛生について

三好労働基準監督署 労働基準監督官 小浦 諒

徳島労働局労働基準部 地方産業安全専門官 吉成 俊輔

阿南労働基準監督署 安全衛生係長 北上 祐二

全国の労働災害建設業関係の概況と徳島県における労働災害の実態について解説する。そして、その具体的事例から原因究明と治山林道現場における労働災害の回避策についての演習を行う。

■研修Ⅲ 気象台が発表する防災気象情報について

徳島地方気象台 土砂災害気象官 佐田 拓也
予報官 杠 力男

近年、台風や集中豪雨が大規模化・頻発化する傾向にあるが、これらにより引き起こされる災害について、大雨警報、暴風警報等の防災気象情報とその効果的な利用について解説する。



西部サテライト会場

■研修Ⅳ 新たな林業施策の展開における治山林道事業との連携について

徳島県農林水産部
スマート林業課 造林担い手担課長補佐 古野 幸司

徳島県では、森林・林業を「核」とした「地方創生」の実現を目指し、平成十七年度より、林業プロジェクトを実施している。これまで展開されたプロジェクトでは、路網整備と機械化等により、県産材生産量の拡大を目指してきたが、その内容及び治山林道事業との連携について解説する。



東部会場

■研修Ⅴ 土木技術者の原点と今後の対応セミナーⅩ

株式会社コンピュータシステム研究所
松野 哲哉

新担い手三法の改正により、本格的に働き方改革・生産性向上・災害時の緊急対応強化が進められることとなったが、これらに対応するための施工管理上の基本的な知識を習得する。
また、特にコンクリート施工に関し、最新の施工管理方法や生産性向上に対する対応について事例を基に必要な知識を解説する。



南部会場

「土育出前授業」の開催



田中森林整備課長の授業

徳島県農林水産部は、令和五年十一月十六日、三好市立辻小学校において、初めてとなる土育の出前授業を行いました。中山間地域の「守り手」である建設業の担い手対策として、子供の頃から「土に触れ」、森林の重要性や森林土木の魅力を感じながら学ぶ「土育」の取り組みの一環で、今年度より新たに実施しています。

県が主催で、地元の協会のご協力のもと、小学生六十一人と幼稚園児十三人の計七十四人が参加し、座学と体験学習の二部構成で行われました。座学では、森林土木魅力発信PR動画の視聴に続き、金太郎に扮した森林整備課の田中課長が、子供たちに語りかけるように「山の大切さ」、防災、そして森林土木工事の説明を行いました。そして体験学習では、高学年はバックホウなど四種類の建設機械の見学・搭乗体験とドローンの操縦体験、低学年は様々な種子の入った「粘土団子作り」を体験しました。

出前授業を通じて、「森林の大切さがわかった。」「森林土木事業の重要性が理解出来た。」など参加者から好評を得ることが出来ました。今後とも県と連携し、未来を担う若者の就業促進を図って参りたいと考えております。

「土育」授業の感想 辻小学校（5）年
徳島県森林整備課の元木課長のおかげで楽しい時間をすごせました。前半は金タロウの話を聞いて、土いじりや穴をあけるビデオを見てもらい、とてもおもしろいと思いました。後半はドローン体験や重機の体験をさせてもらいました。ドローン体験では、はやくわたりやまを飛ばすのが楽しかったです。重機の体験では、エンジンのかかりや実際に運転するの体験をさせてもらいました。大人になったお重機の仕事に入りたいです。

「土育」授業の感想 辻小学校（2）年
わたしは森林の大切さが一番心にのこりました。そのわけは森林がいろいろなやくめをはたしているからです。たとえは、としゃさいがいのとしゃがながれて来ても木がいっぱいはいはえていたらとしゃをつかんでくれるからです。ほかにも、わたしたちがいきをしてものにさんかたんそをきゅうしてさんそを出してくれることでわたしたちはすくすくいけるから、森林の大切さが心にのこりました。



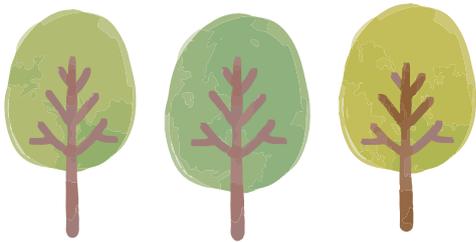
参加者全員の記念撮影



種子入りの粘土団子作り



重機への搭乗体験



令和5年度全国治山林道協会会長会議開催

を入れました

令和五年度全国治山林道協会会長会議が、十月十二日・十三日に、本県において初めて開催され、全国から八十三名の方々が参加されました。

当会議は山口俊一が会長で、林野庁の施策や予算の理解を深める協会活動の協議の場として毎年開催しており、現地視察を含め全国各地で持ち回りで開催されています。

初日十二日は、徳島市の徳島グランヴィリオホテルにおいて開催され、冒頭、山口会長が主催者代表で挨拶され、「気候のフェーズは変わり、ここ数年の異常気象を日常気象と言わざるを得ない状況と



後藤田徳島県知事の来賓挨拶



山口会長の挨拶



土育の紹介



現地視察（吉野川上流地区民有林直轄治山事業）

なっており、これらに対応できるよう治山事業や林道整備を推進していく必要がある。更には花粉症対策も追い風となっており、年末の予算確保に向け、昨年を超える成果を上げていきたいので、皆様方のお力添えをお願いしたい。」と力強いお言葉をいただきました。

続いて、来賓としてご出席いただいた後藤田正純徳島県知事、岡田理絵徳島県議会議長、仁木博文衆議院議員から、本県への歓迎と治山林道事業を後押しするご挨拶がありました。

その後、林野庁の河合治山課長から、「治山事業を巡る最近の情勢」と題して、令和六年度概算要求の内容や全国の山地災害の発生状況、事業の効果事

例等について講話があり、続いて徳島大学大学院の西山准教授から「三好市における土砂災害の歴史」と題して、三波川変成帯の地すべりやその特性等について貴重なお話をいただきました。

そして最後に、徳島県森林整備課田中課長から、徳島県独自の取組である「土育」の紹介と「森林土木」の魅力と「森林づくり」の大切さを発信する動画「来たれ！森林土木」が上映されました。

翌十三日は、三好市内の森林基幹道川崎国見山線と吉野川上流地区民有林直轄治山事業地と板野町の「徳島木のおもちゃ美術館」に赴き、本県の治山林道事業の実施状況や林業施策の取組等について意見交換するとともに、全国へ発信する事ができました。

辰 2024 年男・年女の抱負



「力の限り生きてやれ！」

東部農林水産局 〈吉野川〉

副局長 朝倉光男

明けましておめでとございます。

会員の皆様におかれましては、新春を晴々しい気持ちでお迎えのこととお喜び申し上げます。また、平素は、本県の治山林道事業の推進にご支援、ご協力を賜っておりますことに厚くお礼申し上げます。

さて、堅苦しい挨拶はこのくらいにして、表題の「力の限り生きてやれ」は、皆様ご存じのとおり歌手の松山千春さんのヒット曲「大空と大地の中で」の一節です。この歌は、仕事がうまくいかなかったとき、失敗したとき、逃げ出したいようになるような苦しいときに、「生きる事がつらいとか苦しいだとか言う前に野に育つ花ならば力の限り生きてやれ」と口ずさむことで、私に元氣と勇気をくれ、泥臭い表現の歌詞が背中を押してくれる応援歌であります。



この歌に元氣と勇気をもらい、これまで三十七年間業務に精励してきた（？）辰年生まれの方は、気がつけば今年で五回目の年男となり、赤いちゃんちゃんこを着る年になりました。紅顔の美少年と言われた十代、監督員として東祖谷の林道熊谷線を振り出しに一生懸命仕事に打ち込んだ

（？）二十・三十代、宮城県庁で震災復興支援に汗を流した四十代後半など、ついこの前のことのように思い出され、五十九年という年月は長いようであつという間だったように思います。この間の、職場でのおもしろエピソードは枚挙にいとまがありませんが、公序良俗の観点から皆様にご紹介できないのが残念であります。

私にとって、今年生まれ変わって新たに出發する年であり、「歩き出そう明日の日に 振り返るにはまだ若い」という歌詞のとおり、人生を振り返るのパートをかけるとともに、趣味の〇〇〇〇はもちろん、これまでできなかった〇〇〇〇にも挑戦するなど、これからは辰（龍）のように力強く、野に育つ花のようにしぶとく「力の限り生きてやるう」と誓ったところであります。

まだまだ書き残したことはありますが、紙面の都合上、この辺りで新年の抱負を締めさせていただきます。こととし、末筆になりますが、皆様におかれましては、新年が龍の如く躍動の年となりますようにお祈り申し上げます。

「新年の挨拶」

西部総合県民局農林水産部 〈三好〉

森林整備担当主事 岡本七海

新年あけましておめでとございます。

旧年中は色々な方に、大変お世話になりました。本年もご迷惑をおかけすることもあるかと思いが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。私事になりますが、高校卒業後に入庁してから早



五年を迎え、現在三好庁舎で森林整備の治山を担当しております。

自宅が阿南であり、那賀高校に通っていた縁から令和三年まで那賀庁舎におり、次は当然美波庁舎に異動するものと思っていたのですが、予想の斜め上をいく三好と宣告され、気づけば海の方ではなく、また山から山へと異動してしまいました。今まで西部の方には全然来たことがなかったので、初めての異動で三好に向かう際には、たどりで着くのか不安で夜も眠れませんでした。

三好に変わって一年目に思い知ったのは冬の異常な寒さでした。自分は生まれも育ちも阿南で、比較的暖かく雪もめつたに降りませんので、三好に来てみれば気温は低く雪も降り積もることがあるため、あまりの寒さからこたつに入って出られないことが多々ありました。

さて遡ること二〜五年前、高校卒業後すぐ配置された那賀庁舎では三年間造林事業を担当しており、検査で現場に行くこともあれば、学生に対する体験授業など、様々な業務を行うと同時に自分も学ばせて頂くきっかけとなりました。

また、異動とともに治山の担当へと変わったことで業務内容も一変し、その重要さと覚えることの多さ、同時に現場監督員として仕事をこなしていくかねばならない忙しさが、治山の難しく大変なところなのかと現在感じています。

学生時代に興味だけで入った林業の世界ではありましたが、三年十五年の八年間を林業に費やしたとしても損をしたと感じないのは、ひとえに関係する方々が親切丁寧に関わってくれたおかげです。もともと「知りたがりな性格」なので、色々な業務を経験してこれからは頑張っていきたいと思えます。

最後になりましたが、皆様におかれましては、今年一年が実りある年となりますようお祈り申し上げます。

2024年度版 (2024.4.1~2025.3.31)

全森建福祉共済制度

— 災害保障特約付団体定期保険 —

ご加入のおすすめ



制度の特長

1. お手頃な掛金で大きな保障が得られます。
2. 業務上・業務外を問わず24時間保障されます。
3. 制度への加入申込み、保険金等の受取人は事業主となります。
4. 掛金は全額損金または必要経費に算入できます。
5. 保険期間は1年で剰余金があれば配当金として還元されます。
6. 医師の診査はなく告知書扱いで加入できます。

【ご意向に沿った商品内容か必ずご確認ください】

この保険は、死亡等の保障を目的とする保険期間1年、保険料掛け捨て型の生命保険です。
重要事項説明(契約概要・注意喚起情報)ならびに「当パンフレット」に記載の保障内容・保険金額・保険料等がお客様のご意向に沿った内容となっているかを必ずご確認のうえ、お申込みください。

お問い合わせ先



一般社団法人 **全国森林土木建設業協会**

〒100-0014 東京都千代田区永田町2-4-3 永田町ビル4F

TEL(03)3581-3336 FAX(03)3581-3341

福祉共済制度

山間僻地を共通の職場とする「全森建」会員のリスクを全国の仲間で分担し合い、スケールメリットを生かして、会員の事業発展に寄与するとともに「全森建」の絆を更に深めるために創設された制度です。

保障内容と月払掛金

希望の口数をご自由にご選択してください。

加入口数		1口		2口		3口		4口		5口				
保障内容	病気による場合	死亡保険金 〔病気等により死亡されたとき〕		200万円		400万円		600万円		800万円		1,000万円		
	不慮の事故による場合	高度障害保険金 〔病気等により別表1の第1級（高度障害状態）に陥られたとき〕		300万円		600万円		900万円		1,200万円		1,500万円		
		死亡保険金 + 災害保険金 〔不慮の事故または別表2の感染症により死亡されたとき〕		70万円～ 10万円		140万円～ 20万円		210万円～ 30万円		280万円～ 40万円		350万円～ 50万円		
		高度障害保険金 + 障害給付金 〔不慮の事故により別表1の第1級（高度障害状態）に陥られたとき〕		1日につき 1,500円		1日につき 3,000円		1日につき 4,500円		1日につき 6,000円		1日につき 7,500円		
障害給付金 〔不慮の事故により別表1の第2級～第6級の障害状態に陥られたとき〕		入院給付金 〔不慮の事故により5日以上入院されたとき、ただし120日限度〕												
月払掛金（概算）	性別		男性	女性										
	年齢（生年月日）													
	15歳～35歳 （S63.10.1生～H21.9.30生）		474	391	948	782	1,422	1,173	1,896	1,564	2,370	1,955		
	36歳～40歳 （S58.10.1生～S63.9.30生）		526	473	1,052	946	1,578	1,419	2,104	1,892	2,630	2,365		
	41歳～45歳 （S53.10.1生～S58.9.30生）		612	519	1,224	1,038	1,836	1,557	2,448	2,076	3,060	2,595		
	46歳～50歳 （S48.10.1生～S53.9.30生）		754	623	1,508	1,246	2,262	1,869	3,016	2,492	3,770	3,115		
	51歳～55歳 （S43.10.1生～S48.9.30生）		968	747	1,936	1,494	2,904	2,241	3,872	2,988	4,840	3,735		
	56歳～60歳 （S38.10.1生～S43.9.30生）		1,272	875	2,544	1,750	3,816	2,625	5,088	3,500	6,360	4,375		
61歳～65歳 （S33.10.1生～S38.9.30生）		1,796	1,073	3,592	2,146									
66歳～70歳 （S28.10.1生～S33.9.30生）		2,526	1,353	5,052	2,706									

（単位：円）

（記載の掛金は加入総口数が2,500口以上5,000口未満の場合です。）

☆更新時の年齢により、掛金は変わりますのでご確認ください。

☆記載の掛金は概算掛金であって、正規掛金は申込み締切後算出し、初回より適用します。

☆掛金には制度運営費が含まれています。（保険料とは、掛金から制度運営費を除いた分をいいます。）

★ 保障内容について ★

- ◆死亡保険金 保険期間中に死亡されたとき、お支払いします。
- ◆高度障害保険金 加入（増額）日以後の病気やケガによって、保険期間中に別表1の第1級（高度障害状態）に該当されたとき、お支払いします。
- ◆災害保険金 保険期間中に発生した不慮の事故による傷害を直接の原因として、その事故の日から起算して180日以内に死亡されたとき、または保険期間中に発病した別表2の感染症により死亡されたとき、お支払いします。
- ◆障害給付金 保険期間中に発生した不慮の事故による傷害を直接の原因として、その事故の日から起算して180日以内に別表1の障害状態に該当されたとき、お支払いします。
- ◆入院給付金 保険期間中に発生した不慮の事故による傷害を直接の原因として、その事故の日から起算して180日以内に日本における病院・診療所またはこれと同等とみなされる日本国外の医療施設にその傷害の治療目的で5日以上入院されたとき、1日につき、所定の入院給付金をお支払いします（1日目から）。ただし、同一の不慮の事故について通算して120日（更新前の入院日数を含みます。）を限度としてお支払いします。

※不慮の事故とは急激かつ偶発的な外来の事故で約款に定めるものをいいます。

森林基幹道赤帽子線が全線開通！



令和五年十一月十一日、徳島県が昭和六十一年に森林基幹道赤帽子線の開設事業に着手して以来、実に三十六年の歳月を経て、ついに全線が開通し、つるぎ町一宇字廣澤において、開通式が盛大に開催されました。当日は、あいにくの曇天でしたが、林野庁の木下整備課長、後藤田徳島県知事をはじめ、関係各位のご臨席のもと式典が執り行われ、神事とテープカットの後、通り初めが行われました。

この日を迎えることが出来たのは、期成同盟会の皆様をはじめ、事業の推進にご支援ご協力いただいた多くの関係者皆様のご尽力の賜物であり、心からお慶び申し上げます。

全線開通を機に、今後益々森林整備が進するとともに、緊急迂回路としての機能など、産業経済の発展や防災面にも大きく寄与することを期待しております。

また、私事となりますが、三十五年前に県職員として初めて担当したのがこの林道であり、開通式に立ち会わせていただいた事を大変光栄に思うとともに、感慨もひとおでした。

とくしま木づかいフェア2023への出展



普及啓発活動



ミニドロシーの操作体験

令和五年十月二十一・二十二日の二日間、板野町「あすたむらんど」において、とくしま木づかいフェア2023が開催され、徳島県治山林道協会ブースを出展しました。

今年も晴天に恵まれ、二日間で六千人を超える来場者があり、親子連れを中心に、興味深く展示をご覧いただきました。

出展内容としては、森林土木事業の魅力発信動画を上映するとともに、治山林道工事における木材の利用状況や防災減災等に関するパネルを展示しました。

また、昨年より実施している「ミニドロシー」のコーナーでは、操作体験を通じて災害時の活用方法を説明するなど、親子で楽しんでいただきました。

また、山地災害の危険信号や治山事業の効果等を印刷した、紙製クリアファイルを配布し、「県民の暮らしの安心安全」に向けた普及啓発活動を実施するとともに、「林業の成長産業化」を支える「緑の下の力持ち」として、幅広く県民にPRすることができました。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお祈り申し上げます。この文章を書いている最中に、能登半島地震の第一報が入りました。亡くなられた方々のご冥福、被災された方々のお見舞いと一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

さて昨年は、新型コロナウイルス感染症は5類に移行したものの、長引くウクライナ危機に加え、イスラエルとパレスチナによるガザ紛争、更には物価高騰などにより、一昨年に続き波乱気味の一年でした。また、気候変動の影響に伴う記録的大雨の頻発化や台風の大型化などにより、九州地方をはじめ各地で河川の氾濫や土砂災害が発生し、多くの尊い人命や貴重な財産が失われました。

このような中で、防災・減災・国土強靱化の推進を含む「経済対策」のための補正予算と令和6年度当初予算を合わせた林野一般公共事業予算は、目標額の2,600億円を大きく上回る2,682億円を確保することができました。

これはひとえに、会員の皆様のご支援・ご協力の賜物です、誠にありがとうございます。今後とも引き続き予算獲得に向け十分気を引き締めて、取り組んで参りたいと考えておりますので、ご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

編集責任者 井関 廣幸

本協会の主な動向 (10月~12月)

- 10月 12日(木) 全国治山林道協会会長会議 (徳島市)
- 13日(金) " (三好市、板野町)
- 21日(土) とくしま木づかいフェア2023(板野町:あすたむらんど)
- 22日(日) "
- 24日(火) 令和5年度治山林道技術研修会
(西部会場:美馬市・三好市)
- 25日(水) " (東部会場:徳島市)
- 26日(木) " (南部会場:那賀町)
- 11月 7日(火) 令和5年度全国森林土木建設業協会技術労働委員会 (東京都)
- 11日(日) 森林基幹道赤帽子線開通式 (つるぎ町)
- 16日(木) 令和5年度土育:つちいく (三好市:辻小学校)
- 21日(火) 森林整備・治山事業促進議員連盟「緊急決起大会」 (東京都)
- 22日(水) 令和5年度日本林道協会通常総会 (東京都)
2023治山・林道のつどい (東京都)
令和5年度治山・林道コンクール表彰式 (東京都)
徳島県選出国議員要望活動 (東京都)
- 28日(水) 令和5年度全国森林土木建設業協会中国四国ブロック会議 (岡山市)
- 30日(木) 令和5年度徳島県森林協会技術研修会 (徳島市)
- 12月 25日(月) 令和5年度治山林道事業に関する知事要望(徳島市)